

会津美里町観光振興計画
アクションプラン

平成29年2月

会津美里町

目 次

1. アクションプランの目的と位置付け	1
2. アクションプランの目標と作成方針	2
3. アクションプランの構成	4
4. アクションプラン	7

1. アクションプランの目的と位置付け

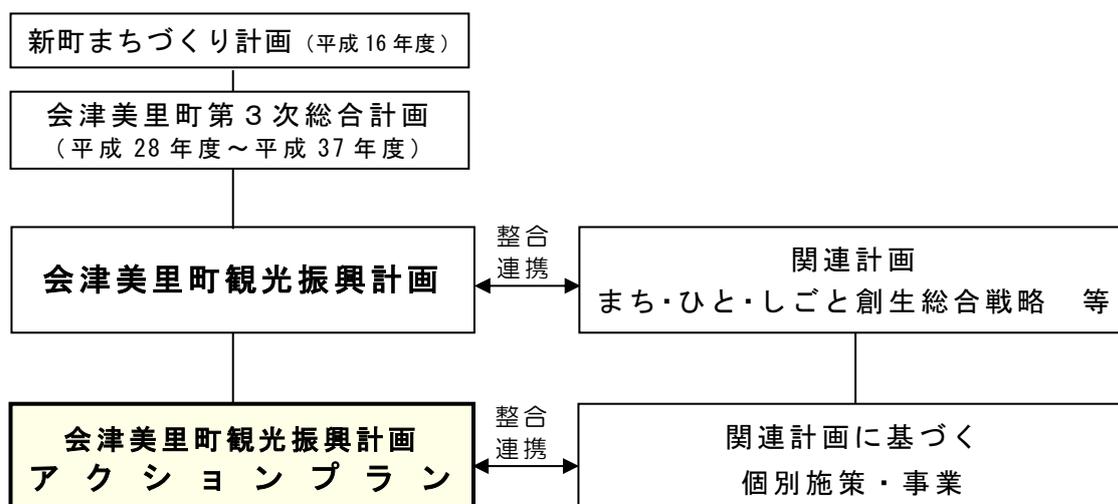
(1) アクションプランの目的

会津美里町では、多くの観光資源を有しながらも、必ずしも活かしきれていない状況を見つめ直し、交流人口を増加させるため、平成28年2月、会津美里町第3次総合計画の個別計画として「会津美里町観光振興計画」（以下、「観光振興計画」とする）を策定した。この計画では、これまでイベント開催が中心だった会津美里町の観光から、季節に合わせた良さを楽しんでもらう、観光事業者・交通事業者・商工業者、町民、及び行政・観光関連団体の3者が共通の認識をもって、地域全体でおもてなしをする着地型観光を実現していく方向を具体化したものであり、その着実な推進が求められている。

本アクションプランは、観光振興計画の着実な推進に向け重要となる短・中期に限定し、観光振興計画における「全体目標」の達成を踏まえつつ、個々の事業をさらに絞り込んで重点化するとともに、相互に関連づけてパッケージ化し、年度別、主体別のプログラムとして、具体的な展開戦略を示すものである。

(2) アクションプランの位置付けと期間

本アクションプランは、観光振興計画に基づくものであり、他の関連計画における個別施策や事業との整合・連携を図るものである。



●アクションプランの期間

アクションプランの期間は、観光振興計画で設定された基本計画の計画期間に対応する平成28年度～平成32年度の5ヶ年とする。

2. アクションプランの目標と作成方針

(1) 短期・中期のビジョンと戦略

観光振興計画で設定した10年後の将来像（長期ビジョン）の実現に向けて、短期・中期の基本目標（目標値：平成32年度）を達成するために、短期・中期（5年間）の具体的なビジョンと戦略を次のとおり設定する。

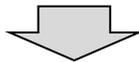
●長期ビジョン（観光振興計画）

将来像：いればいるほど元気になれる^{うるわ}美しいの里

基本理念：会津美里町の地域資源を活かし、人が主役となり、地域をつなげる観光地づくり

計画目標：

- ①【一人あたりの観光消費額】2,452円(H26)→3,720円(H32)
- ②【観光施設における入込客数】6.3万人(H26)→6.8万人(H32)



●短期・中期ビジョン

- 会津地方の観光拠点として独自の魅力を創出する
- 会津美里らしい着地型観光商品を醸成する
- 新たな観光まちづくりの推進体制を確立する

●短期・中期の戦略

I. 既存の資源、施設、人材、組織を吟味し、積極的活用による再構築を図る

- ・観光振興計画の基本理念にも示されているように、地域のあらゆる資源等を積極的に活用し、再構築することで、地域課題の解決と計画の実現性を担保する。

II. 観光資源、人的資源などを結びつけ、ネットワーク化による魅力創出を図る

- ・様々な地域資源を組み合わせたり、個々の取り組みを連携・ネットワーク化することで、観光まちづくりの大きな推進力や新たな魅力・価値を生み出す。

III. 絞り込んだ商品を開発し、小さな成功体験を重ね相乗効果の発現を図る

- ・テーマやターゲットを絞り込んだ商品を開発し、規模が小さくあるいはニッチでも成功体験を重ねることで、人々の関心を高めるとともに、相乗的な地域の魅力や賑わいを発現する。

(2) アクションプラン作成の基本方針

次に挙げる基本方針のもと、本アクションプランを作成する。

① ワークショップによる観光まちづくりの具体化

- ・平成28年度実施の「観光まちづくり実践ワークショップ」の結果を踏まえ、事業を具体化する。

② 限られた予算で最大の効果を生む個別事業の絞り込み

- ・限られた予算の中で、最大の効果が期待できるよう、個別事業を絞り込む。

③ 個別事業の連携によるパッケージ化

- ・目標実現に向け、効果的な個別事業の連携・ネットワーク化を意識し、パッケージ化する。

3. アクションプランの構成

観光振興計画において「重点的に取り組むべき個別のプログラム」として設定した「地域別プログラム」をベースに、短期・中期で優先的、先導的に取り組むべき事業を軸に、さらに、相乗的な効果が期待される関連事業と合わせてパッケージ化し、アクションプランとして提案する。

なお、このうち、インバウンドに関する事業、宿泊施設に関する事業については、近年の全国的な市場の動向や基本的な基盤としての重要性から、新たにアクションプランとして加えている。

アクションプランは、以下の7つを設定し、観光振興計画における地域別プログラムとの対応、及びアクションプランの設定方針については、次頁の表に示す。

アクションプラン1及び2は観光の＜ソフト面の基盤づくり＞に関わるもの、アクションプラン3～5は＜観光商品の開発＞に直接関わるもの、さらに、アクションプラン6、7は＜ハード面の基盤づくり＞に関わる内容となっている。

短期・中期ビジョンの実現に向け、観光まちづくり全体に関わる＜ソフト面の基盤づくり＞に当面の重点を置きながら、それぞれのアクションプランを連携させ推進していく。

● 7つのアクションプラン

アクションプラン1：DMOの設立・展開	}	ソフト面の基盤づくり
アクションプラン2：情報発信とプロモーションの推進		
アクションプラン3：散策ルート等の商品開発	}	観光商品の開発
アクションプラン4：農と食を活かした観光の推進		
アクションプラン5：インバウンド観光の育成		
アクションプラン6：宿泊拠点の整備等	}	ハード面の基盤づくり
アクションプラン7：空き店舗等を活用した拠点整備		

■観光振興計画における地域別プログラムとアクションプランの対応

地域別プログラム（観光振興計画）		アクションプランと設定の考え方
プログラム名	主な事業の内、 先導的に取り組むべき事業	
1. 空き店舗活用と連動した伊佐須美神社横町門前町の形成【高田地域】	2-②空き店舗等活用推進事業（空き店舗等の情報発信） 2-③空き店舗等を活用した計画的な拠点整備	● 空き店舗等を活用した拠点整備 ⇒ アクションプラン7 ・滞在・交流・回遊を促すための拠点を創出するため、 空き家・空き店舗を活用した拠点整備 の関連事業を設定
2. 会津本郷焼体験と瀬戸町散歩を楽しむ焼き物文化の里づくり【本郷地域】	1-①まち歩き観光ルートの開発とPRキャンペーンの実施 5-②レンタサイクルの導入 6-①ものづくり体験プログラムや商品づくり 8-②文化財を活用したリピーター層に対応できる素材・ストーリーづくり 13-①観光ガイドの育成	● 散策ルート等の商品開発 ⇒ アクションプラン3 ・観光客が地域の魅力を存分に味わい且つ快適に観光するためには、お勧めルートを開発しPRすることが有効であり、ここでは、 散策ルート等の商品開発 の関連事業を設定
3. 農と食を中心とした丘陵地帯の観光拠点化【新鶴地域】	7-①観光農園エリアの整備 7-②ワインツーリズムの創出 7-④グリーン・ツーリズムの推進 7-⑤年間を通じた体験プログラムづくり 11-①地域資源を活用した観光地魅力創造事業	● 農と食を活かした観光の推進 ⇒ アクションプラン4 ・会津美里町の大きな魅力の一つは、農産物やこれらを活かした食べ物であり、 農と食を活かした観光の推進 の関連事業を設定
4. 情報発信からはじまる会津美里型観光プラットフォーム（DMO）の構築【町全域】	10-①推進体制の構築	● DMOの設立・展開 ⇒ アクションプラン1 ・全施策の推進に向けては、観光まちづくりの推進体制づくりが重要であり、 DMOの設立 に関する事業を設定
	10-②「観光百人衆」の立ち上げ 10-④観光情報共有化推進事業 14-②SNSを用いた町民レポーターによる身の回りの情報の拡散 14-③SNSを活用した魅力的景観コンテストの実施	● 情報発信とプロモーション ⇒ アクションプラン2 ・観光客の誘客に向けては、会津美里町を知り、興味をもってもらうこと、 情報発信やプロモーション が重要であり、これらの関連事業を設定
—	※近年の全国的な動向から、インバウンド対策は重要事項であることから、別途設定。 17-⑤Wi-Fi環境等の整備 17-⑦イバウインド誘致に向けた情報発信 17-⑧旅行会社等へのPR 17-⑨イバウインド消費の推進	● インバウンド観光の充実 ⇒ アクションプラン5 ・インバウンド観光は、なお増加傾向であり、重点的に誘客を図っていくべきであり、 インバウンド観光の充実 に向けた事業を設定
—	※宿泊については、観光振興計画の戦略プログラム3に記載され、観光の基盤に関わり、また、町全域に関連する重要事項であることから別途設定。 3-①農家民宿運営システム 3-②温泉宿泊施設の再整備	● 宿泊拠点の整備等 ⇒ アクションプラン6 ・より長く滞在してもらうには、基礎的な観光基盤となる 宿泊施設 が重要であり、 宿泊拠点の整備 の関連事業を設定

(参考) アクションプランと個別目標の対応

下表は、設定した7つのアクションプランと各指標との対応を示したものであり、特に効果が期待されるものに◎、効果が期待されるものに○を付けたものである。

アクションプラン	施策の柱	A. 観光地としての受け入れ基盤の整備		B. 着地型観光の確立		C. 観光まちづくりの推進		D. 地域連携による観光事業の拡大	
	指標	観光宿泊客数	観光レンタサイクル貸出件数	会津本郷協同組合の売上額	歴史文化事業・施設等への町外参加者数	ポータルサイトへのアクセス数	観光ガイドの回数	海外からのポータルサイトへのアクセス数	観光施設へのWi-Fi環境の整備箇所数
1) DMOの設立・展開		○	○	○	○	○	○	○	○
2) 情報発信とプロモーション		○	○	○	○	◎	◎	○	○
3) 散策ルート等の商品開発		○	◎	◎	◎	—	◎	—	—
4) 農と食を活かした観光の推進		○	○	○	○	—	—	—	—
5) インバウンド観光の充実		○	○	○	○	—	—	◎	◎
6) 宿泊拠点の整備等		◎	○	○	○	—	○	—	—
7) 空き店舗等を活用した拠点整備		○	○	○	○	—	○	—	—

4. アクションプラン

前項 p.5 の表で示した「アクションプランと設定の考え方」に基づき、7つのアクションプランを示す。また、最後に、各アクションプランの「検討・活動・事業等」のみを抽出した事業一覧を整理する。

なお、各事業については、限りある予算・人材の中で、状況に応じて取捨選択しながら取り組んでいくものとする。

- アクションプラン1：DMOの設立・展開
- アクションプラン2：情報発信とプロモーションの推進
- アクションプラン3：散策ルート等の商品開発
- アクションプラン4：農と食を活かした観光の推進
- アクションプラン5：インバウンド観光の育成
- アクションプラン6：宿泊拠点の整備等
- アクションプラン7：空き店舗等を活用した拠点整備

※各アクションプランの丸数字+ゴシック体の事業は特に取り組むべき個別事業とする。

アクションプラン1：DMOの設立・展開

- ・ DMOの設立・展開については、町全体を対象に、会津美里町の観光まちづくりに携わる全ての関係団体、組織、住民の連携により、取り組むものとする。
- ・ まず、ニーズ調査に基づいたターゲット分析を行い、基本戦略を設定した上で、運営計画を検討、会津美里町版DMOの基本的な枠組みを決定する（①観光関連データの収集・蓄積、②DMOの基本戦略、運営方針の検討、③DMOの運営計画の検討）。
- ・ 次に、将来のDMOの運営予定メンバーにより構成されるDMOの準備組織を設置し、DMOの設立・登録に向け、運営計画等も含めた形成確立計画を策定する（④「DMO形成確立計画」の策定）。具体的には、平成31年度当初にDMO設立及び観光庁の登録申請、同年度からのDMOが主体となった各種の事業着手を目指し、活動するものとする。
- ・ 立ち上がった「会津美里DMO（仮称）」は、それまで町や観光協会を担当してきた情報発信・プロモーション事業（次項）を中心に活動し、見直しや分析を行いながら、戦略的に展開していく（⑤情報発信、プロモーション事業の実施）。
- ・ 個別事業については、短期3年間で実験的に検討・実施してきたモニターツアーや体験プログラムの結果を踏まえ、旅行エージェントと連携しながら、独自に企画・販売する（⑥体験と宿泊を組み合わせた旅行商品の企画・販売）。
- ・ その他、町内で不足している二次交通の確保策として、デマンドタクシーの観光利用を検討し、町、交通事業者と調整しながら導入を目指す（⑦デマンドタクシーと連携した二次交通の導入）。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	DMO準備組織、会津美里町DMO（仮称）
	観光協会、振興公社、商工会、その他関連団体等
	備考

【凡例】

□: 検討・作業、調査等 □: 事業計画や実証実験等 □: 施設整備、制度やシステムの運用等 □: PDCAサイクル

短期			中期	
H28 (2016) / 今年度	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)
<p>会津美里町DMOの基本方向 (基本的役割、体制の方針等の検討) (部会・協議会)</p> <p>DMOの基本方向の確認</p> <p>事業費予算措置 (各年次)</p>	<p>①観光関連データの収集、蓄積、分析</p> <p>②DMOの基本戦略(ターゲット、展開方向)、運営方針の検討</p> <p>DMOの基本戦略、運営方針の確認</p>	<p>③DMOの運営計画の検討</p> <p>DMOの運営計画の合意</p> <p>DMO準備組織の設置</p>	<p>④「DMO形成確立計画」の検討(分析、戦略、運営計画等の詳細検討)</p> <p>DMOの設立、「DMO形成確立計画」の策定</p> <p>「地域DMO」の登録</p> <p>観光庁への登録申請(審査)</p>	<p>・形成確立計画に基づく展開</p> <p>分析、戦略策定等</p> <p>⑤情報発信、プロモーション</p> <p>事業者等への中間支援(事業者間の調整、情報提供等)</p> <p>⑥⑦個別事業等実施(既往事業の精査、拡充)</p> <p>・PDCAサイクルに基づく、計画の随時チェック見直し</p> <p>・関係者調整、合意形成</p>
<p>・部会、協議会への主催</p>	<p>・観光関連データの収集、蓄積、分析</p> <p>・DMOの基本戦略、運営方針の検討</p>	<p>・観光関連データの収集、蓄積、分析</p> <p>・DMOの運営計画の検討</p> <p>・福島県、観光庁への事前相談</p>	<p>・DMOの設立支援</p> <p>・観光庁への登録申請の支援</p>	<p>・DMOの取り組み、個別事業への協力、運営支援(関連事業の委託、資金補助等)</p>
—	—	<p>・DMO準備組織の設置</p> <p>・「DMO形成確立計画」の検討</p>	<p>・「DMO形成確立計画」の検討、策定</p> <p>・DMOの設立</p> <p>・観光庁への登録申請、登録</p>	<p>・分析、戦略策定等</p> <p>・情報発信・プロモーション</p> <p>・事業者等への中間支援</p> <p>・個別事業等実施</p>
<p>・部会、協議会への参加</p> <p>・DMOの基本方向の確認(合意)</p>	<p>・町によるDMOの基本戦略、運営方針の検討への協力</p> <p>・DMOの基本戦略、運営方針の確認(合意)</p>	<p>・DMOの運営計画の合意</p>	<p>・DMOによる各種取り組み、個別事業への協力、連携</p>	
				<p>※東京オリンピック・パラリンピック</p>

アクションプラン2：情報発信とプロモーションの推進

- ・ 短期3年間では、町民等が会津美里町の魅力を発信することにより、町民の参加意識を高めながら、町の知名度の向上を図るとともに、観光ホームページ（ミサトノ.jp）や観光拠点施設（インフォメーションセンター等）の充実により、観光客とのコミュニケーションの基本となる部分を強化する。また、別途実施するターゲット分析と基本戦略に基づき、効果的な観光プロモーションを推進する。立ちあがるDMOでは、これらを引継ぎ、事業を継続的に展開していく。
- ・ 平成28年度の試行実施を踏まえ、町内外の有志による会津美里町の応援組織として「観光百人衆」を具体化する。観光協会が認定制度を整備し、ロゴマーク等を提供する。メンバーの対象は町民・町外の方など幅広く捉え、また、観光ホームページ（ミサトノ.jp）と連動した、一般目線による生の会津美里情報の発信の仕組みを構築する（①観光百人衆の具体化）。
- ・ 観光ホームページ（ミサトノ.jp）は、町のあらゆる観光情報を集約させ、WEB上の観光窓口として、DMOの立ち上げまでに運営方法も含めてリニューアルする。利用者の役に立つ内容・構成にするとともに、先の観光百人衆による情報発信やSNSとも連動し、新鮮な地域情報を発信していく（②観光ホームページの充実）。
- ・ 今2カ所あるインフォメーションセンターを充実させ、観光ホームページと連動したオール美里のリアルな観光窓口として機能させる。従来の情報提供に加え、町内店舗や施設と連携して観光客が喜ぶ情報を積極的に提供する（③観光拠点施設の充実）。
- ・ インターネットを利用した観光情報の提供が主流となってくることから、Wi-Fiは必須の基盤であり、まちなかや観光スポットを中心に整備を進める（④Wi-Fi整備）。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	町民等有志
	会津美里町 観光協会
	会津美里町 DMO（仮称）
	その他関連団体 （商工会等）
	備考

【凡例】

□ : 検討・作業、調査等 □ : 事業計画や実証実験等 □ : 施設整備、制度やシステムの運用等 □ : PDCAサイクル

短期		中期		
H28(2016)/今年度	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
情報発信の仕組みづくり（基本方向）の検討（部会・協議会）	町民等有志による情報発信の試行実施	住民による情報発信の定着、拡充（情報発信活動の継続展開、各事業との連携）		
	①観光百人衆の具体化	PDCAによる事業の継続展開		
	②観光ホームページの充実	風景写真コンテストの実施(*1)	疑似体験動画の配信(*2)	PDCAによる事業の継続展開
	③観光拠点施設の充実			PDCAによる事業の継続展開
	観光プロモーションの推進			PDCAによる事業の継続展開
	④Wi-Fi整備			
	音声ガイドサービス検討	サービス試行運用	サービス本運用	
	関係者による「情報発信とプロモーション」の方針への合意			
	事業費予算措置	各年次		
・協議会・WSの主催 ・町民等有志による情報発信の試行実施への支援	・住民による情報発信の定着、拡充（支援） ・観光百人衆の具体化 ・観光ホームページの充実（支援） ・観光拠点施設の充実 ・音声ガイドサービス検討	・住民による情報発信の定着、拡充（PDCAサイクルによる情報発信活動の継続展開、各事業との連携） ・風景写真コンテストの実施（支援） ・観光ホームページの充実（支援） ・観光拠点施設の充実 ・サービス試行運用	・各事業のPDCAサイクルによる継続展開（各主体への支援、連携等） ・サービス本運用	
・Wi-Fi整備、観光プロモーション推進 ・町民等有志による情報発信の試行実施	・住民による情報発信の定着、拡充（町からの支援）	住民による情報発信の定着、拡充（PDCAサイクルによる情報発信活動の継続展開、各事業との連携）		
・部会、協議会への参加	・観光百人衆の具体化 ・観光ホームページの充実 ・観光拠点施設の充実	・観光ホームページの充実 ・風景写真コンテストの実施 ・観光拠点施設の充実		
-	-	-	・「観光ホームページ」、「インフォメーションセンターの充実」、「観光プロモーション」に関するPDCAサイクルによる事業の継続展開、疑似体験動画の配信	
・部会、協議会への参加	・観光拠点施設の充実 ・各事業への協力	・観光拠点施設の充実 ・各事業への協力	・各事業への協力	・各事業への協力
				※東京オリンピック・パラリンピック

*1: SNS等を活用して町の魅力的な風景の写真コンテストを行う

*2: 町のお年寄り目線の動画を解説付きで配信し、会津美里町の日常生活を疑似体験してもらう。

アクションプラン3：散策ルート等の商品開発

- 平成28年度に検討した、本郷まち歩きと自転車の2種の回遊ルート案を活用し、商品化に向けたモニターツアーを実施し、DMO立ち上げ後に、本格的な商品化、販売を目指す。
- まずは、回遊ルート案をマップ化し、紙媒体やホームページで提供する（①ルートマップの作成、提供）。マップ化の際には、回遊する際に便利な情報等も盛り込む。また、回遊拠点となる場所にマップを設置する他、特に自転車回遊マップについては、レンタサイクル利用者に積極的に配布する。
- 本郷地域では、瀬戸町散歩と焼き物体験に加え食の体験を組み合わせたモニターツアーを実施し、これまでの取り組みも踏まえ、先行して商品化を検討していく（②瀬戸町散歩と焼き物体験モニターツアーの実施）。並行して、新たな観光ガイドの育成も行い、将来的には有料化も含めて運用方法を検討する。
- 新しい試みである自転車回遊は、三十三観音や伊佐須美神社等の巡礼と組み合わせ、若い世代やインバウンドを対象としたプログラムを検討する（自転車巡礼するモニターツアーの実施）。モニターツアーの実施結果を踏まえ、自転車回遊のための環境整備（例えば、レンタサイクルの自転車台数増やレンタサイクルの有料化、道案内サイン設置、空気入れ設置、水分補給可能箇所やトイレの案内設置等）も進めていく。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	会津美里町 観光協会
	会津美里町 DMO（仮称）
	その他関連団体 （振興公社、商工 会、その他）

【凡例】

□ : 検討・作業、調査等 □ : 事業計画や実証実験等 □ : 施設整備、制度やシステムの運用等 □ : PDCAサイクル

短期			中期	
H28(2016)/今年度	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
回遊ルートの検討（散策、自転車回遊ルート案、必要な施設等の検討）（部会・協議会）	①ルートマップの作成、提供		観光商品化、販売 回遊を支援する案内サインの整備	
	②瀬戸町散歩と焼き物体験モニターツアーの実施 ③自転車で巡礼するモニターツアーの実施			レンタサイクルの拡充（台数・設置個所増、有料化検討） 観光ガイドの育成、観光ガイドの有料化
	関係者による「散策ルート等の商品開発」方針への確認			
	事業費予算措置	各年次		
・協議会・WSの主催	・ルートマップの作成、提供（支援） ・モニターツアーの実施	・モニターツアーの実施 ・レンタサイクルの拡充 ・観光ガイドの育成（支援）	・回遊を支援する案内サインの整備 ・レンタサイクルの拡充（DMOへの支援） ・観光ガイドの育成（DMOへの支援）	
・部会、協議会への参加	・ルートマップの作成、提供	・観光ガイドの育成	-	
-	-	-	・観光商品化、販売 ・レンタサイクルの拡充 ・観光ガイドの育成	
・部会、協議会への参加、協力	・各事業への協力（マップの配布、HPリンク等）	・各事業への協力（マップの配布、HPリンク等）	・各事業への協力（マップの配布、HPリンク等）	
				※東京オリンピック・パラリンピック

アクションプラン4：農と食を活かした観光の推進

- ・ 農と食は会津美里らしさを表すキーワードのひとつであり、これを活かしたツーリズムを観光商品として開発する。
- ・ 具体的には、農家等地域住民の協力を得ながら、四季折々の会津美里の農や生活文化、自然を活かした体験を中心としたプログラムについて検討し、モニターツアーを通して商品化を目指す（①農と食のツーリズムの検討、計画、環境整備）。
- ・ また、新鶴地域の特産品であるワインぶどう栽培のノウハウを活用し、民間主導によりワイナリーの整備を進め、栽培から、醸造、販売、消費までを見学・体験して楽しむことのできるツーリズムの創出を目指す（②新鶴を拠点としたワインツーリズム構想の検討、拠点整備）。
- ・ 一方、会津美里町の農産品等を活用した飲食メニューや贈答品等6次産業化商品を開発する（③6次産業化商品の検討、開発、販売）。町内各施設での販売に加え、ふるさと便やカタログ販売等も検討する。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	農家等
	民間事業者
	会津美里 振興公社
	その他関連団体 （商工会、その他）

【凡例】

□ : 検討・作業、調査等 □ : 事業計画や実証実験等 □ : 施設整備、制度やシステムの運用等 □ : PDCAサイクル

短期		中期		
H28(2016)/今年度	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
食を活かした商品づくりの検討（特産品を活かしたプログラム等の検討） （部会・協議会）	観光農園の検討、整備計画、整備			事業の継続展開 農と食のツーリズムの推進 ワインツーリズムの創出に向けた継続展開
	①農と食のツーリズムの検討、計画、環境整備 ・農や生活文化、自然を活かした体験を中心とした体験を中心とした旅行商品の造成と環境整備 ②新鶴地域を拠点としたワインツーリズム構想の検討、拠点整備 ・民間事業者によるワインツーリズムの機運の醸成、と官民連携による拠点整備			
	③6次産業化商品の検討、開発、販売 ・地元宿泊業、飲食業、物産業等との連携、		事業の継続展開	
			ふるさと便（体験型ギフト含む）の検討、販売（*1）	
	関係者による「農と食を活かした観光」の方針への合意			
	事業費予算措置 各年次			
・協議会・WSの主催	・観光農園の検討、整備計画、整備への支援（農家への支援、連携） ・農と食のツーリズムの検討、計画、環境整備（民間事業者への支援、連携） ・ワインツーリズム構想の検討、拠点整備（民間事業者への支援、連携）		・観光農園の運営への支援	・観光農園の運営拡充、農と食のツーリズムの推進、ワインツーリズムの創出に向けた継続展開（民間事業者との連携、支援等）
※個人としての部会参加者あり	・個別農家での観光農園の検討、整備計画、整備（町の支援、連携） ※想定		・観光農園の運営（町の支援、連携） ※想定	・観光農園の運営拡充 ※想定
・部会、協議会への参加	・民間事業者による農と食のツーリズムの検討、計画、環境整備（町の支援、連携） ・民間事業者によるワインツーリズム構想の検討、拠点整備（町の支援、連携）※想定			・農と食のツーリズムの推進（町との連携） ・ワインツーリズムの創出（町との連携） ※想定
・部会、協議会への参加	・6次産業化商品の検討、開発 ・ふるさと便の検討、販売	・6次産業商品の販売 ・ふるさと便の検討、販売	・事業の継続展開 ・ふるさと便の検討、販売	
・部会、協議会への参加	・各事業への協力	・各事業への協力	・各事業への協力	・各事業への協力
				※東京オリンピック・パラリンピック

*1：6次産業化商品や体験型商品のギフトカタログ

※一般の民間事業については「想定」とする

アクションプラン5：インバウンド観光の育成

- ・ インバウンド観光については、ゼロからのスタートであり、ターゲットをしぼった上で、海外に向けた情報発信を実施するとともに、モニターツアーを通じた商品を開発し、受け入れ体制も整備していく。
- ・ 情報発信については、町ゆかりの外国人等が観光百人衆に参加し、生の会津美里情報を発信する（①観光百人衆を活かした外国人向けコンテンツの発信）。また、ターゲットに応じた観光ホームページの外国語表記を導入するとともに、デジタルDMOと連携し、海外に向けた発信のベースを構築する（②HPの外国語表記、デジタルDMOとの連携）。
- ・ また、テーマを深掘りしたモニターツアーの実施により（例えば、祈りと食をテーマとした体験ツアー）商品開発や環境整備に反映していく（③インバウンドを対象とした祈りと食の体験ツアー）。
- ・ 町側の受け入れ準備として、基本的な基盤となるWi-Fiの整備を進める他、外国人への対応や町内事業者のサポート役を担うインバウンド対応コンシェルジュの設置を検討する（④インバウンド対応コンシェルジュの検討）。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	会津美里町 観光協会
	会津美里町 DMO（仮称）
	その他関連団体 （振興公社、商工 会等）

【凡例】

□ : 検討・作業、調査等 □ : 事業計画や実証実験等 □ : 施設整備、制度やシステムの運用等 □ : PDCAサイクル

短期			中期	
H28 (2016)/今年度	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)
インバウンド観光の充実に向けた方向性 (協議会)	①観光百人衆を活かした外国人向けコンテンツの発信	③インバウンドを対象とした折り紙と食の体験モニターツアーの企画、実施	DMOの戦略に基づくインバウンド向けプロモーションの推進、継続展開	インバウンド向け誘客商品の開発、販売 PDCAサイクルによる継続展開
	②HPの外国語表記、デジタルDMOとの連携 インバウンド誘致に向けた旅行会社へのPR			
	Wi-Fi整備			
	音声ガイドサービス検討 (*1)	サービス試行運用	サービス本運用	
	関係者による「宿泊拠点整備」の方針への合意			
	事業費予算措置	各年次		
・協議会・WSの主催	・HPの外国語表記、デジタルDMOとの連携 ・旅行会社等へのPR (旅行商談会への参加等) ・体験モニターツアーの実施 ・音声ガイドサービス検討	・サービス試行運用	・DMOによるプロモーションへの協力、支援 ・DMOによる旅行会社と連携したインバウンド誘客商品の開発、販売への協力、支援	・サービス本運用
・Wi-Fi整備				
・部会、協議会への参加	・外国人向けコンテンツの配信 (観光百人衆) ・HPの外国語表記 ・旅行会社等へのPR (旅行商談会への参加等) ・インバウンド対応コンシェルジュの検討 ・インバウンド対応の人材育成		・各事業への協力	
—	—	—	・戦略に基づくプロモーションの実施、継続展開 ・インバウンド向け誘客商品の開発、販売、継続展開 ・インバウンド対応コンシェルジュの検討	
・部会、協議会への参加	・各事業等への協力	・各事業等への協力	・各事業等への協力	・各事業等への協力
				※東京オリンピック・パラリンピック

*1: 要所に設置された発信装置と連動した、スマートフォン等による音声ガイドの提供

アクションプラン6：宿泊拠点の整備等

- ・ 町内の宿泊については、ニーズ分析に基づき、既存施設の拡充策や新たな宿泊施設の導入について検討する。
- ・ 前段までに挙げられた各種体験プログラムと連携して、宿泊も含めたモニターツアーを実施し、会津美里町にふさわしい宿泊のあり方を検証する（①農や回遊等の体験・イベント+お酒+宿泊を組み合わせたモニターツアーの実施）。これらの結果を踏まえ、農家民宿・民泊の運営システムや空き家を活用した宿泊施設の整備も検討していく。
- ・ 老朽化が進む温泉宿泊施設については利活用及び整理統合について検討する（②温泉宿泊施設の利活用方針に基づく検討）。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	町内の 宿泊事業者
	会津美里町 DMO（仮称）
	その他関連団体 （振興公社、商工 会等）

【凡例】

□ : 検討・作業、調査等 □ : 事業計画や実証実験等 □ : 施設整備、制度やシステムの運用等 □ : PDCAサイクル

短期		中期		
H28 (2016)/今年度	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)
宿泊施設の整備の方向性 （事業内容、時期、主体等） （部会・協議会）	宿泊に関するニーズの調査、分析 ※1）－①事業の一環として実施		農家民宿、民泊等のシステム構築、運営	システム拡充運営（PDCAサイクル）
	① 農や回遊等の体験・イベント、酒、宿泊を組み合わせたモニターツアー の検討、企画、実施		需要を踏まえた、空き家を活用した宿泊施設整備の検討、事業計画、整備	
	② 温泉宿泊施設の利活用方針に基づく検討		温泉宿泊施設の利活用及び整理統合（～H33）	
	宿泊施設に係る連携体制の検討	宿泊施設に係る連携体制の構築（DMO事業との調整）	DMOによる宿泊事業者への中間支援制度の整備、運用	
	関係者による「宿泊拠点整備」の方針への合意			
	事業費予算措置 各年次			
・協議会・WSの主催	・宿泊ニーズの調査、分析 ・モニターツアー実証実験の企画	・宿泊ニーズの調査、分析 ・モニターツアー実証実験	・農家民宿、民泊等のシステム構築、運営への支援	・農家民宿、民泊等のシステム拡充運営
	・温泉宿泊施設の利活用方針の検討	・温泉宿泊施設の利活用方針の検討	・温泉宿泊施設の整備に向けた準備、整備（～H33）	
	・宿泊施設に係る連携体制の検討	・宿泊施設に係る連携体制の構築	・DMOによる宿泊事業者への中間支援制度の運用促進（宿泊事業者、DMOへの支援）	
・部会、協議会への参加	・実証実験の企画協力等	・モニターツアー実証実験（町との共同実施）	・農家民宿、民泊等の運営（町の支援、連携）	・農家民宿、民泊等のシステム拡充運営
-			・DMOによる宿泊事業者への中間支援制度の運用	
・部会、協議会への参加	・各事業等への協力	・各事業等への協力	・各事業等への協力	・各事業等への協力
				※東京オリンピック・パラリンピック

アクションプラン7：空き店舗等を活用した拠点整備

- ・ 空き店舗等については、空き店舗等の現状把握を行った上で、情報発信の仕組みを構築し、希望者とのマッチングを図るとともに、利用者の起業・創業支援に資する事業を実施する。その後、高田・本郷の両地域において、民間資金の活用等により、まちなかの活性化の引き金となるような回遊拠点を創出する。最終的には、観光客や地域住民が活動・交流する回遊拠点が増え、まちなかにおける面的な魅力と賑わいの創出を目指す。
- ・ 具体的には、空き家現況調査の結果から、そのデータベース化や情報発信等を行い、空き店舗の活用促進を行う（①空き店舗等のデータベース整備と、情報発信（空き家バンク）、②空き店舗等の活用促進に向けた検討調査（支援制度等）、支援制度の整備）。
- ・ 空き店舗等活用事業としては、高田地域では横町門前町を中心に飲食・物販、起業者のオフィス等の、本郷地域では瀬戸町を中心に焼き物を始めとしたクリエイターの誘致を検討し、また、クラウドファンディング等の資金調達の仕組みの活用も検討しながら、回遊拠点を整備する（③伊佐須美神社横町門前町における空き店舗等を活用した回遊拠点の整備、④空き店舗や蔵の活用とクリエイター誘致による瀬戸町の回遊拠点の整備）。

全体	検討・活動 事業等
	合意・策定等
	関係機関調整等
主体別 アクション	町（行政）
	民間団体・企業 ・個人
	会津美里町 観光協会
	会津美里町 DMO（仮称）
	その他関連団体 （振興公社、商工 会等）

【凡例】

□ : 検討・作業、調査等 □ : 事業計画や実証実験等 □ : 施設整備、制度やシステムの運用等 □ : PDCAサイクル

短期			中期	
H28(2016)/今年度	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
空き店舗等調査の実施	①空き店舗等のデータベース整備と情報発信(空き家バンク)	空き店舗等の情報発信(PDCAによる継続展開)		
空き店舗等を活用した拠点整備の検討(部会・協議会)	空き店舗等活用の助成制度の運用、拡充 ②空き店舗の活用促進に向けた検討調査、支援制度の整備			
		③伊佐須美神社横町門前町における空き店舗等を活用した回遊拠点の検討、整備 ※想定		他の空き店舗等へ展開
		④空き店舗や蔵の活用とクリエイター誘致による瀬戸町の回遊拠点の検討、整備 ※想定		他の空き店舗等へ展開
	創業支援セミナー等の実施 特定創業支援事業の実施		PDCAによる継続展開	
	関係者による「空き店舗を活用した拠点整備」方針への合意			
	事業費予算措置 各年次			
・部会・協議会の主催	・データベースの整備と情報発信開始 ・助成制度運用・拡充(支援) ・空き店舗等の活用促進に向けた検討調査	・情報発信の継続 ・助成制度運用・拡充(支援) ・空き店舗等の活用促進に向けた検討調査	・情報発信の継続 ・助成制度運用・拡充(支援)	・情報発信の継続 ・助成制度運用・拡充(支援)
—	・宅建協会との連携	・宅建協会との連携 ・個別の空き店舗等を活用した店舗等の事業計画(町の支援、連携) ※想定	・宅建協会との連携 ・民間による空き店舗等を活用した拠点整備(町の支援、連携) ※想定	・宅建協会との連携 ・民間による空き店舗等を活用した拠点整備(町の支援、連携) ※想定
・部会、協議会への参加	・PR協力(活用された店舗等)	・PR協力(活用された店舗等)	(協力の継続)	(協力の継続)
—	—	—	・情報発信への協力、空き店舗等活用事業の支援	・情報発信への協力、空き店舗等活用事業の支援
・部会、協議会への参加、協力等	・情報発信への協力 ・助成制度運用・拡充	・情報発信への協力 ・助成制度運用・拡充	(協力の継続)	(協力の継続)
				※東京オリンピック・パラリンピック

※一般の民間事業については「想定」とする

会津美里町観光まちづくり推進協議会 委員名簿

NO	氏名	所属	備考
1	石原 直	NPO法人 観光情報流通機構理事長 目白大学客員教授	首都圏からの外部有識者 委員長
2	小泉 大輔	福島県テクノアカデミー会津 職業能力開発短期大学校 観光プロデュース学科 副教務主任	
3	村松 尚	会津美里町観光協会 理事	副委員長
4	星野 幸子	会津美里町商工会理事 女性部長	
5	高梨 宣浩	会津美里振興公社 取締役総合管理部長	
6	鈴木 裕	株式会社アールエイチ企画 営業部長	地元観光関係者
7	小林 章太郎	株式会社三番山下 代表取締役 Café&marché Hattando マネージャー	飲食店関係者
8	長谷川 洋一	会津美里町宿泊事業者連絡会 会長	宿泊事業関係者
9	金田 浩司	梅林タクシー有限会社 代表取締役	交通事業関係者
10	柴崎 陽	就農移住者	農業関係者
11	阿部 雄一郎	会津まちづくりパートナーズ合同会社 代表 中小機構 東北 新市場開拓コーディネーター	地域支援事業者
12	竹内 樹美	社団法人福島県建築士会 会津支部 女性委員会委員長	町内事業者

会津美里町観光まちづくり推進協議会 事務局

NO	氏名	所属	備考
1	阿部 正寿	会津美里町商工観光課長	
2	長嶺 和彦	会津美里町商工観光課長補佐	
3	高橋 力也	会津美里町商工観光課観光係長	
4	横山 美代子	会津美里町商工観光課観光係主任主査	
5	川田 浩泰	会津美里町商工観光課商工係主任主査	
6	須原 庸次	株式会社コムテック地域工学研究所代表取締役	
7	小浦 洋生	株式会社コムテック地域工学研究所取締役 地域デザイン室長	
8	脇門 裕子	株式会社コムテック地域工学研究所主任研究員	

■アクションプラン一覧

アクションプラン	短期				中期	
	H28(2016)／今年度	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	
1) DMOの設立・展開	調査事業 会津美里町DMOの基本方向(基本的役割、体制の方針等の検討)(部会・協議会)	①観光関連データの収集、蓄積、分析			分析、戦略策定等	
	関係者調整 DMOの基本方向の確認	②DMOの基本戦略(ターゲット、展開方向)、運営方針の検討	③DMOの運営計画の検討	④「DMO形成確立計画」の検討(分析、戦略、運営計画等の詳細検討)	⑤情報発信、プロモーション 事業者等への中間支援 ⑥⑦個別事業等実施	
	登録申請等	DMOの基本戦略、運営方針の確認	DMOの運営計画の合意	DMO準備組織の設置	DMOの設立、「DMO形成確立計画」の策定	「地域DMO」の登録
2) 情報発信とプロモーション	情報発信の仕組みづくり(基本方向)の検討(部会・協議会)	住民による情報発信の定着、拡充(情報発信活動の継続展開、各事業との連携)			P D C Aサイクルに基づく、計画の随時チェック見直し、関係者調整、合意形成	
		①観光百人衆の具体化	P D C Aによる事業の継続展開	風景写真コンテストの実施	疑似体験動画の配信	
		②観光ホームページの充実			P D C Aによる事業の継続展開	
		③観光拠点施設の充実			P D C Aによる事業の継続展開	
3) 散策ルート等の商品開発	回遊ルートの検討(散策、自転車回遊ルート案、必要な施設等の検討)(部会・協議会)	①ルートマップの作成、提供	音声ガイドサービス検討	サービス試行運用	サービス本運用	
		②瀬戸町散歩と焼き物体験モニターツアーの実施	③自転車で巡礼するモニターツアーの実施		観光商品化、販売	回遊を支援する案内サインの整備
					観光商品の拡充(台数・設置箇所増、有料化検討)	観光ガイドの育成、観光ガイドの有料化
4) 農と食を活かした観光の推進	食を活かした商品づくりの検討(特産品を活かしたプログラム等の検討)(部会・協議会)	①農と食のツーリズムの検討、計画、環境整備 ・農や生活文化、自然をいかした体験を中心とした体験を中心とした旅行商品の造成と環境整備			事業の継続展開	
		②新鶴地域を拠点としたワインツーリズム構想の検討、拠点整備 ・民間事業者によるワインツーリズムの機運の醸成、と官民連携による拠点整備			農と食のツーリズムの推進	
		③6次産業化商品の検討、開発、販売 ・地元宿泊業、飲食業、物産業等との連携			事業の継続展開	
5) インバウンド観光の充実	インバウンド観光の充実に向けた方向性(協議会)	①観光百人衆を活かした外国人向けコンテンツの発信			DMOの戦略に基づくインバウンド向けプロモーションの推進、継続展開	
		②HPの外国語版、デジタルDMOとの連携				
		③インバウンドを対象とした折り紙と食の体験モニターツアーの企画、実施			インバウンド向け誘客商品の開発、販売、P D C Aサイクルによる継続展開	
		④インバウンド対応コンシェルジュの検討			P D C Aによる事業の継続展開	
6) 宿泊拠点の整備等	宿泊施設の整備の方向性(事業内容、時期、主体等)(部会・協議会)	①農や回遊等の体験・イベント、酒、宿泊を組み合わせたモニターツアーの検討、企画、実施			システム拡充運営(P D C Aサイクル)	
		②温泉宿泊施設の利活用方針に基づく検討			需要を踏まえた、空き家を活用した宿泊施設整備の検討、事業計画、整備	
		宿泊施設に係る連携体制の検討			温泉宿泊施設の利活用及び整理統合(～H33)	
7) 空き店舗等を活用した拠点整備	空き店舗等調査の実施	①空き店舗等のデータベース整備と情報発信(空き家バンク)			空き店舗等の情報発信P D C Aによる継続展開	
	空き店舗等を活用した拠点整備の検討(部会・協議会)	②空き店舗の活用促進に向けた検討調査、支援制度の整備				
		③伊佐須美神社横町門前町における空き店舗等を活用した回遊拠点の検討、整備 ※想定			他の空き店舗等へ展開	
		④空き店舗や蔵の活用とクリエイター誘致による瀬戸町の回遊拠点の検討、整備 ※想定			他の空き店舗等へ展開	
		創業支援セミナー等の実施			P D C Aによる継続展開	
		特定創業支援事業の実施				

凡例

- : 検討・作業、調査等
- : 事業計画や実証実験等
- : 施設整備、制度やシステムの運用等
- : P D C Aサイクル
- : 調整、もしくは、一体的に推進する事業等